

総合教育研究センター

学生向け情報誌

クレードル

第15号

CRADLE

Center for Research And Development of Liberal arts
Education

15th issue

オーストラリア 行ってきました

オーストラリア短期研修 2018（語学研修+森に生きるオーストラリアコース）の感想

（構成 総合教育研究センター 伊藤義之）



CRADLE(クレードル) 第15号 2019年5月発行

発行者 伊藤義之 天理大学 人間学部 総合教育研究センター

〒632-8510 奈良県天理市柚之内町 1050

電話・FAX 0743-63-7092（内線）6111

p. 1~p. 7

オーストラリア 行ってきました

p. 8

心の健康法 13

〈集中科目「オーストラリア短期研修 2018」は今年（2019 年）の 2 月に実施されました〉

どうして行こうと思ったの？



本多健士（体育学科 3 年次生＝当時、以下同様）

自分自身の経験、勉強、遊びのために海外に行って、色々な考えを吸収したかったから。

日原健登（地域文化学科 1 年次生）

人生経験を増やす為。

梶田梨月（英米語専攻 1 年次生）

今まで海外に行ったことが無くてこの研修が海外へ行くきっかけを与えてくれるかなと思ったので。

中畝喜美（英米語専攻 4 年次生）

卒業後の進路に不安を抱き空回りしていたところ、声をかけてもらったのが参加したきっかけです。留学を終えていたので精神的な余裕も少しはあり、これまでの自分を見直すチャンスにもなるのではと感じて参加しました。



向こうの街や人はどんな感じだった？

奥村敦（体育学科 3 年次生）

生活のすぐ隣に自然があり、水不足など国が抱えてる問題を国民で改善しようとしていた。ホームステイの時に洗濯が 1 週間に 1 回だったので服をもう少し持っていけたら良かった。



天願隆寿（体育学科 3 年次生）

ブリスベンはとても過ごしやすい町だと思った。夜は早く電気が消え、気候は暖かくて夜は涼しく過ごしやすいかった。人も和やかでとても親切だと感じた。





吉川愛美（英米語専攻4年次生）

とても人が暖かく、特にブリスベンは海外なのにあまり危険を感じないほどでした。バスの運転手さんは優しく、きちんと目的地を伝えておくとその場所で必ず降ろしてくれました。

伊藤大翔（体育学科3年次生）

日本ほど蒸し暑くなく過ごしやすかったと感じました。また、オーストラリアの人たちはとても親切でした。



日本と違うところは？

中畝喜美

一番の違いは気候でした。とても暑かったですが湿気が少ないため過ごしやすかったです。歩いたりバスに乗っているだけで山が遠くに見えたり脇道に青々とした植物（繁み）があり、日本に比べて自然を身近に感じました。

梶田梨月

バスに乗った時は日本と違って停留所の場所を表示や案内されないのは驚きました。バスを降りた時に Thank you. や乗った時には Hello. と挨拶したりと会話もしていた所も日本と違うなど感じました。

日原健登

のんびりしてる。



天願隆寿

早寝早起きを徹底する点は日本と大きく違うところだと感じた。町の店やスーパーなどは早く閉まるし、夜はほとんど人が歩くことはないと感じた。

奥村敦

食べ物が全体的に違うなど感じた。1番は味。



英語の勉強はしっかりできた？

梶田梨月

大学に関しては日本人が多くてどちらかと言うと日本語で話すことが多くはなりましたが授業では英語で話さないといけなかったり、アクティブな授業だったのでとても楽しかったです。

中畝喜美

英語で英語学習をできたのが大きな収穫でした。母語以外での言語学習はこれまでの学びの振り返りや応用にもつながり、語学学校に行けてよかったです。

奥村敦

大学生活は(日本人が多くて)最初は嫌でしたが、国士舘の子たちもすごい仲良くしてもらい、たのしくすごせました。1週間たった時には早いとかんじました。



ホームステイは楽しかった？

伊藤大翔

とても親切で私の考えや意見を第1に考えてくださりました。夜遅くまで話してくださったり、英語の勉強までしてくださり、とても面倒見の良いホストファミリーでした。みんなにオススメしたいです！！！！！！

梶田梨月

ホームステイの人も私と沢山話をしてくれたり、英語で話す時も指摘をしてくれたりとはあまりネイティブの人と話す機会が無かったけどとてもいいきっかけとなりました。

**本多健士**

ホームステイでは1人だったのが何より良かった。あの生活を続ければもっと英語の能力が向上すると思った。

吉川愛美

(ホストファミリーには)自分の伝えたいことをきちんと伝えないと、何をしたいのかが伝わらないのでミスコミュニケーションが起きたりもします。そういった生活をなかなか日本では経験することがないので、とても貴重だったと思います。

**中畝喜美**

できるだけ仲良くなりたくて、おしゃべりの時間を大事にしたら家族みんなと仲良くなれました。お別れの時に泣いてくれたママの顔が忘れられません。

レンジャーらと「森に生きた」感想は？

天願隆寿

「森に生きる」の活動はオーストラリアの自然を感じることができるし、とても楽しかった。日本以外の自然環境について知ることができたしとても勉強になった。



中畝喜美

枝を切ったり引っこ抜いたり…シンプルな作業だけど環境保全にもつながり、喜んでくれる人もいるのだと思うとやりがいがありました。もっと作業する時間がほしかったです。



梶田梨月

活動を行った後には達成感がありました。仲間と活動をしているととても楽しく感じました。レンジャーさんも話しているととてもいい人で面白い人達でした。



奥村敦

オーストラリアの自然を守るために外来種を駆除したりする(レンジャー)姿はカッコよく見えました。こういった仕事はやりがいがあるんだろうなと思った。

**本多健士**

ランタナ駆除は勉強になった。汗水流して駆除するやりがいやレンジャーさんとの関わりを通して、もっと今後、駆除に貢献したいと思った。



今後の人たちへのメッセージ

梶田梨月

まだ海外へ行ったことが無いよという人にはこの研修がいいと思います。期間が短くて学習だけで無く観光等も行くことが出来るのでとても楽しめると思います。私もこの研修で初めて海外へ行きましたがこの研修がきっかけで自分自身や見方などが変わった感じがします。

伊藤大翔

まじで行った方が良い。行って帰ってきたら気づく。



天願隆寿

是非参加するべきものだと思う。特に海外に行ったことがない人に参加してほしいと思った。とても視野が広がるし、見聞や知識も深めることができる。僕自身ももう一回行きたいくらいの内容だった。後で一生の財産になる経験ができる。

本多健士

新しい環境にお金を出すことは今後必ず生きてくる。海外には絶対に出るべきだと思う。

中畝喜美

普段かかわらない学部や学科の仲間と仲良くなれるチャンスです。みんな学んでいる学問や個々の年齢が違うからこそ、お互いに面白く楽しい気づきがいっぱいあります。

**吉川愛美**

とにかく、森に生きるは最高に楽しいです!!!日本での森に生きるも楽しいですが、オーストラリアは日本を飛び出して、全く知らない土地に行くので、毎日ワクワクの連続です!ことばの壁は心配しなくても大丈夫です!むしろ、自分のことばで言いたいことが伝わった瞬間は思わず笑顔になることも✧✧。



心の健康法 13

「ふつう」であることを大切にしましょう。

総合教育研究センター 仲 淳

「ふつう」という言葉。みなさんはこの言葉を聞かれてどんな感じがするでしょうか？
可もなく、不可もなく。平凡。

思春期のこどもに「最近どう？」と聞いたら返ってくる言葉、「ふつう」。

「悪い」よりはいいわけですが、あまり「いい」というわけではなく、むしろ「毒にも薬にもならない」という意味では、「悪い方がまだまし」みたいなニュアンスもある言葉です。
でも「ふつう」って、そんなに価値が低いことなのではないでしょうか??

たとえばもし、一年中、毎日がお正月とクリスマスだけだったら、どうでしょう？
野に咲く花、全部がひまわりだったら、わたしたちの心は癒されるでしょうか？
毎日毎日インスタ映えを求めているのは、疲れてしまうと思いませんか？

わたしたちの生活は、空気や水、白いご飯などの、ことさら特別ではない、無色透明に近くて目立たない、「ふつう」のモノやコトにその大半を支えられて成り立っています。

世に有名人はたくさんいますが、この社会を実際に動かしているのは、名もない一人一人の「ふつう」の人間です。歴史のテストでは、「奈良の法隆寺を建てた人は？」という問題の答えは「聖徳太子（厩戸皇子）」ですが、本当にリアルな答えは「大工さん」なのです。

「ふつうに」おいしい。「ふつうに」おもしろい。モノや情報があふれるように行き交う世の中で、「ふつう」であることの価値は少し下がってきてしまったのかもしれませんが。
でも「ふつうで、当たり前」であることは、実際には数々の奇跡的なことに支えられた、とても偉大で、ありがたいことなのです。

「自分自身に対しても、変に肩ひじを張って特別であろうとするのではなく、まず等身大のふつうの」自分自身を大切にしていく。慈しんでいく。今日も「ふつうの」一日が無事終わったら、その一日に感謝する。幸せって案外、目の前にあるのではないのでしょうか？

